腹膜播種に対する腹腔内化学療法

腹膜播種に対する腹腔内化学療法の効果は全身化学療法に比べ期待できると考えられており、多施設臨床試験によって腹腔内化学療法の有用性を検証中ですが、現時点では卵巣がん以外の患者さんへの使用は保険適応外ですので、希望される患者さんは、自費診療となります。

腹腔内投与方法

ベッド上で副作用予防の点滴注射ののち、腹腔内ポートから
約1時間かけて1Lの薬液を腹腔内投与します。
入院の必要はありませんが、薬が十分腹腔内全体にいきわたる
ように、2日間はできるだけ寝そべっていましょう。

費用

・ パクリタキセル（大腸癌・膵癌）	1回あたり 50000円（税込）
・ ドセタキセル（胃癌）	45,000円
・ フルオロウラシル（虫垂癌）	55000円